



## 名古屋文理大学の これからの教育と研究について

理事長・学園長 滝川 嘉彦

情報メディア学部増設，基礎教育センターならびに食と栄養研究所設立記念特集号の紀要刊行おめでとうございます。発刊に際し，名古屋文理大学のこれからの教育と研究についての思いを記したいと思います。

私たちの所属する名古屋文理大学は平成11年開学と若く，学生数約1,000名の小規模な大学です。一般的には，規模が大きい方が経済的メリットを生かした安定経営のもとで教育・研究が行えると考えられており，私も少なくとも1,600名程の学生数が必要であると考えています。しかし後発の大学の優れた特徴の一つである，社会変化への適応力という側面から見ると，規模が大きいほど社会変化を迅速に教育・研究に反映しにくい場合があることから，大学の適正規模の上限は3,500名程と考えています。

こうした規模への考え方は，名古屋文理大学が現場から生まれる様々な課題やニーズに応じてゆくことを教育・研究の第一義に捉えていることを前提にしています。教育・研究には基礎的なものから先端的なものまでありますが，現場の課題やニーズに応えるということは，実証的な学問すなわち「実学」を目指すということです。そのためには日常的な講義や演習さらには学外実習やクラブ活動の中で「食」「栄養」「情報」の実学を学べる体制を作らなければなりません。学ぶもの，教えるもの，支えるものすべてが実学を意識しながら日々を過ごすことがその始まりだと思います。そして適応力と実学が名古屋文理大学の長所と言われるように成長してほしいと思います。

さて，今日の企業や行政が大学に送る視線は大変厳しくなってきました。これはとりもなおさず大学への期待が高まっていることを意味します。しかしその大きさに，私はよく重い荷物を背負いながら山を登る姿を思い浮かべます。左背には「質の保証」という荷物を，右背には「特徴」という荷物を背負っています。

「質の保証」は大学は高等教育の質を保証せよという意味ですが，基本的には自己点検評価や情報公開という枠組みを使った自主的な質の向上を導き出そうとしています。「学生による授業評価」「GPA」「3ポリシーの提示」なども全ては危機意識から自主的に選択してきたものであり，それを認証評価機関が一定の強制力を持って追認しますが法令上適合を得る必要はありません。したがって私たちはこれからも自分の意思で「質の保証」に取り組む姿勢が求められています。

その新たな試みの一つが基礎教育センターです。基礎教育センターは基礎教育の改善によって名古屋文理大学の専門教育の質の向上を担う仕組みです。

ゆとり教育や進学率の向上が高等教育の質に与えた影響は計り知れません。このことに私たちは具体

策を持って取り組まなければなりません。しかし高等学校と同様の授業では学生の「やる気」を引き出せません。教え方に工夫を凝らしたり、教員同士が連携して力を合わせたり、さらに地元の高等学校と連携してSLOs（学生の学習成果の向上）を示すことが求められています。現在は少数の教員によって取り組まれています。私は全教科担当者の力を結集してほしいと願っています。なぜなら最終的には専門教育をもって名古屋文理大学の教育の質が問われることになるからです。

さて次は右側の荷物です。「質の保証」が大学が行う現在のための方策だとすると、右背の「特徴」は私たちが実践する教育・研究に優位性をもたらすものであり名古屋文理大学の未来を担うものです。

私は「名古屋文理大学は優秀な卒業生が現場に居るおかげで就職が困らない」と考えています。この評価には名古屋文理大学短期大学部の40年前の特徴が関与しています。本学は短期大学でありながら多くの男子学生を受け入れていました。当時の短卒男子の就職斡旋は難儀したことが推測されます。しかしその努力によって男子卒業生が様々な職域に広がり、現在の後輩たちの高就職率につながっていると考えられるのです。こうした「特徴」こそ未来を担うものであると考えます。

「食と栄養研究所」はこうした観点から設置される名古屋文理大学の新たな特徴を作るための機関です。一般的な研究所は研究のみを目的にすることが多いのですが、この研究所は「教育・研究の特徴をつくること」を目的の第一に上げています。

“研究所は、教育と研究の限られた資源の選択と集中により名古屋文理の新たな特徴を作り出すこと、教員の教育・研究における意欲の向上を図り本学の教育・研究のレベルを向上させるとともに現場で役に立つ人材の育成に貢献すること、特徴ある食及び栄養に関する研究を推進することを通じて科学の進歩及び教育の向上に資するとともに、広く学術文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。（規程より）”

また研究所は「幅の広さ」を連想させますが、食と栄養研究所は研究所準備委員会が行った名古屋文理の人的・物的資産の調査結果を踏まえ限定された分野が設定されています。

“研究グループ：(1) 臨床栄養・介護グループ、(2) 栄養・健康グループ、(3) 食品・調理グループ、  
(4) 学際領域グループ（規程より）”

“取り組むべき課題：1. 地域社会（尾張東部）と連携した臨床栄養、栄養疫学、食育、食品開発、フードビジネス等に関する調査・研究（稲沢市役所、稲沢市民病院、名古屋市西区役所、食品関連企業等との連携）、  
2. 高齢化社会に対応した高齢者の食と栄養・健康に関する調査・研究（国立長寿医療研究センター等との連携）（委員会資料より）”

ここから生まれた研究成果が教育に反映され、卒業生の特徴になり、さらに名古屋文理大学の特徴になることによって、本学を未来に牽引してくれることを期待しています。

健康栄養学科、フードビジネス学科、情報メディア学科、そして食物栄養学科、栄養士の皆さんが積極的に食と栄養研究所に参加して、力を合わせて「特徴」作りに邁進してくれることを願っています。